

◆ 今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.22(50例)で、前週(0.73, 30例)に比べ増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。年齢群別では、すべて2歳以上からの報告です。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.71(29例)で、前週(0.83, 34例)に比べ減少していますが、引き続き過去5年平均値を上回る状態で推移しています。年齢群別では、2歳以下で82.8%を占めています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.09(6例)です。一方、全国の定点当たり報告数は0.57で、前週(0.31)の約2倍となり、第43週以降、7週連続の増加となります。都道府県別では、8県で流行開始の目安となる1.00を超えています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は14.90(611例)で、前週(16.37, 671例)より減少したものの、依然として過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.09	6
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	14.90	611
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.22	50
	③ 水痘	0.98	40
	④ RSウイルス感染症	0.71	29
	⑤ 突発性発しん	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

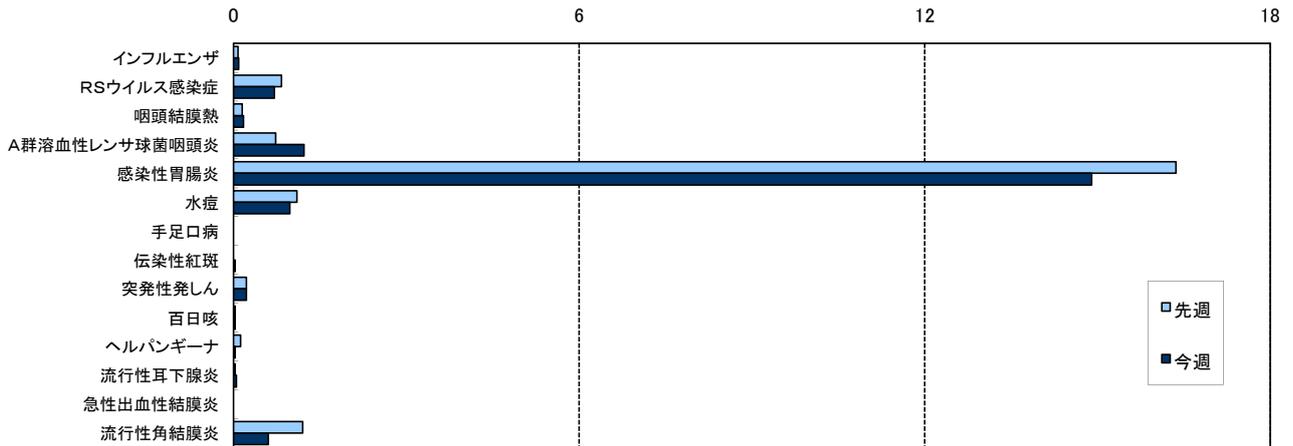
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは、平成24年12月13日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

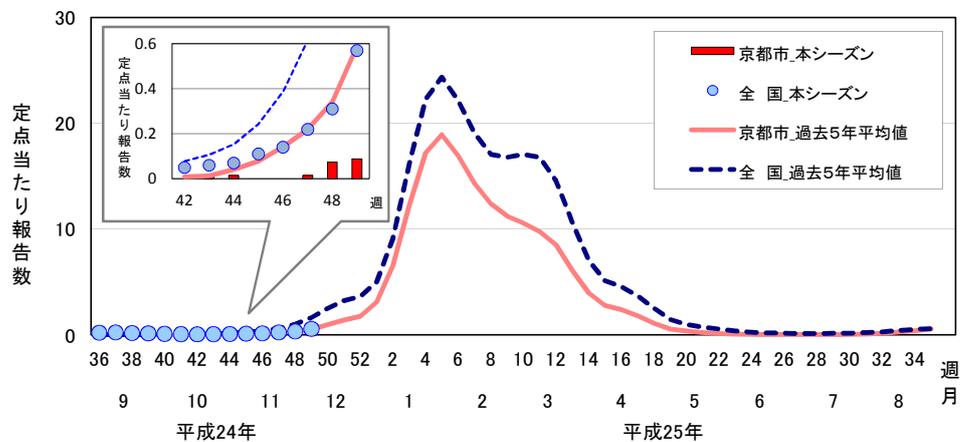
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第49週)と先週(第48週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

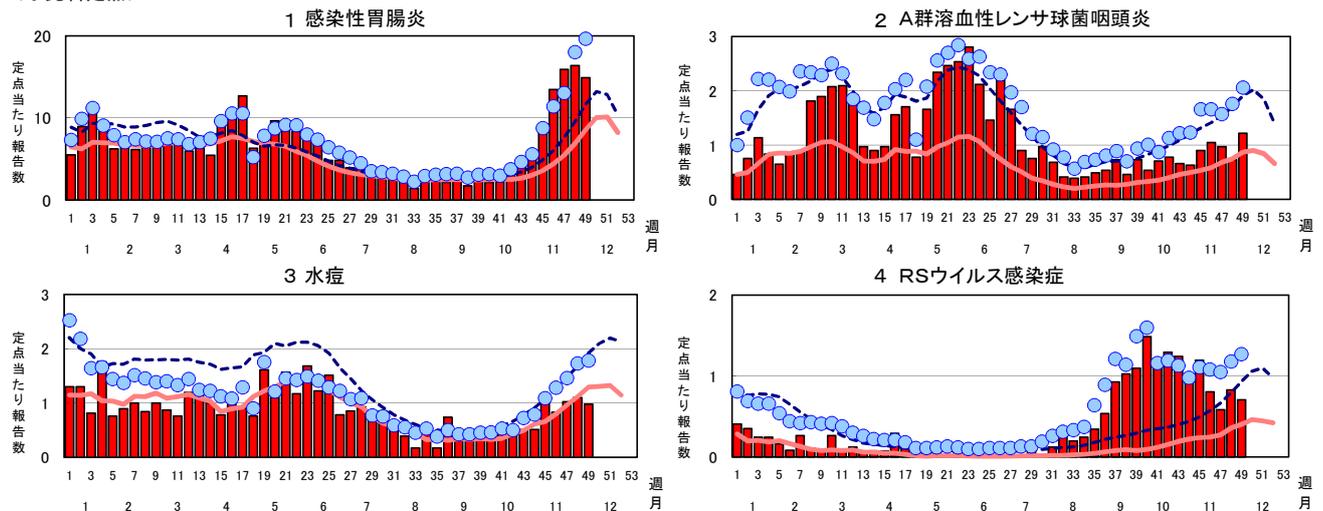
週	報告数(例)
第45週	0
第46週	0
第47週	1
第48週	5
第49週	6
累積報告数 (第36週以降)	15



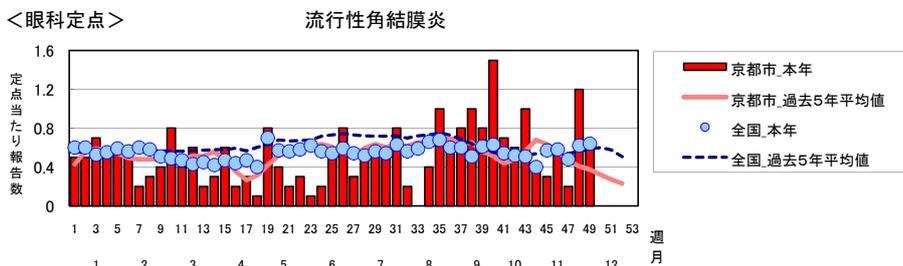
※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



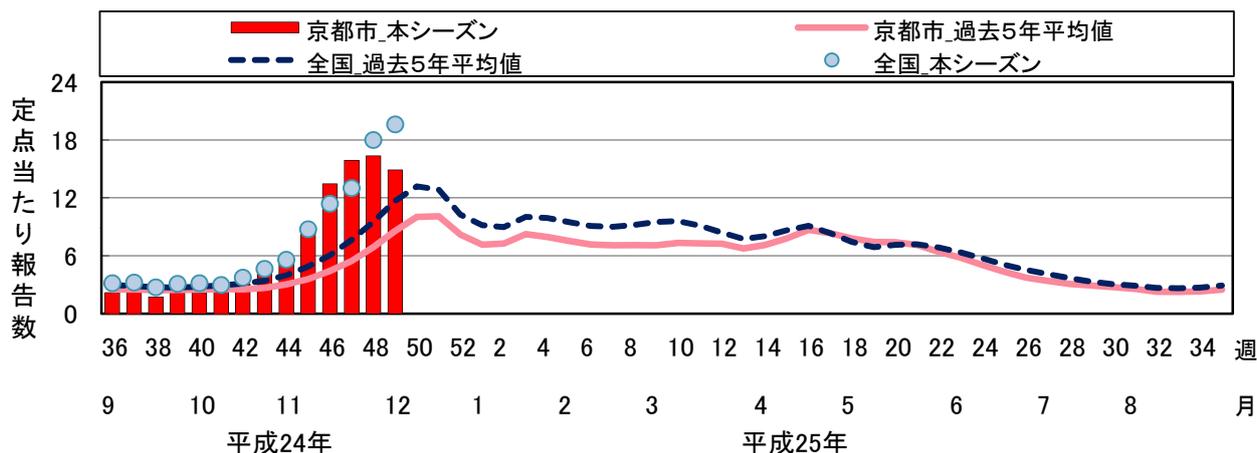
第49週(12月3日～12月9日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は14.90(611例)で、前週(16.37, 671例)より減少したものの、依然として過去5年平均値を大きく上回っています。

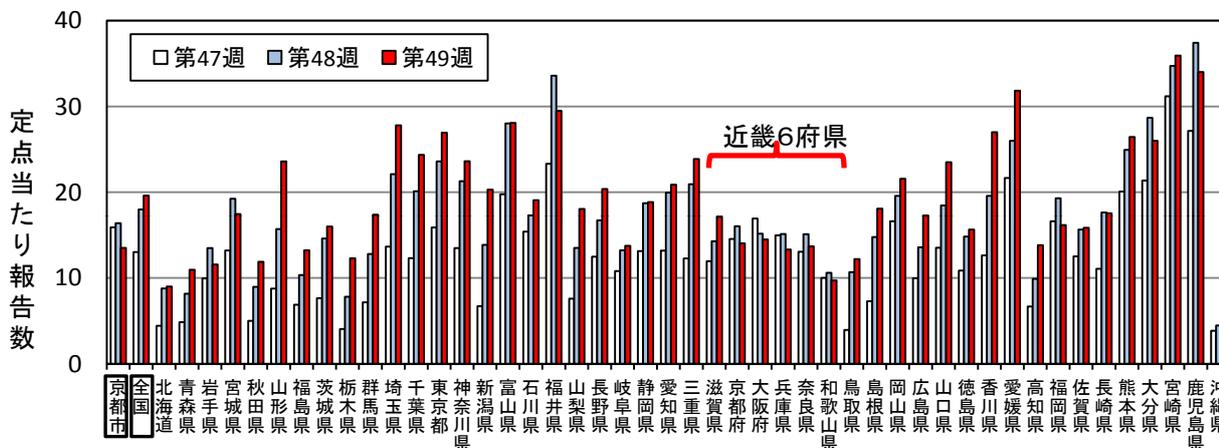
都道府県別定点当たり報告数の推移をみると、滋賀県を除く近畿5府県では前週に比べ減少しています。しかし、全国の定点当たり報告数(19.62)は、前週(18.00)よりも増加しており、33都道府県で増加しています。

京都市衛生環境研究所では、病原体定点において11月以降に採取された感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスG Iを1件、ノロウイルスG IIを30件検出しています。全国の今シーズンのノロウイルスの検出状況を見ると、ノロウイルスG IIが大半を占めています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



本市及び全国の今シーズンのウイルスの検出割合(第36週(平成24年9月3日)～)

